

ちゅうげん
お中元

ちゅうげん た もの にちようひん おく ふつう た
お中元には食べ物や日用品を贈るのが普通で、デパートその他では、
とくべつ う ば もう やと だい おこな
特別な売り場を設けたり、アルバイトを雇ったりして大セールを行う。
さいきん せんぼう ちよくせつじさん た はいたつ
最近では、先方に直接持参することをせず、デパートその他から配達され
ることが多い。

ちゅうげん めうえ ひと せわ ひと かんしゃ おく
お中元は、目上の人や世話になった人に感謝のつもりで贈られるもの
だが、一般に日本人の贈り物は、それに対してお返しをするのが礼儀にな
っている。葬式や結婚式などに贈られる金品に対しては、前者のような
ちょうじ ていど こうしゃ けいじ めした ひと どうがくていど めうえ
弔事には50%程度、後者のような慶事では目下の人には同額程度、目上の
ひと どうとう ひと ていど きじゆん かんしゆう き
人や同等の人には50%程度といった基準が慣習によって決まっています、
まちが かんけいしゃ かげぐち おうべい けいさん
それを間違えると関係者から陰口をたたかれかねない。欧米のチップの計算
どうよう ひじょう むずか
と同様に非常に難しい。

とく かんしゆう のうそんちほう びょうきみま りょこう せんべつ
特に、慣習のきびしい農村地方では、病氣見舞いでも旅行の餞別で
きんぴん きろく おく ぬし どうよう しょう ばあい
も、金品を記録しておいて、贈り主に同様なことが生じた場合はかなら
ず金品を贈ることになっている。こういう社会では大切な「義理」という
きんぴん おく しゃかい たいせつ ざり
のは、この「お返し」であると考えている人が多い。この贈り物とお返
しは、相互扶助の保険の原初的な形態を考えている学者もいる。